

case 01

「先走り」のしくじりから学ぶ

学校のチームづくりで学んだこと

公立高校で勤めたのち、民間企業に就職し、再び教育現場に戻ってきた石川県の金沢高等学校の寺西望先生。民間企業での実践経験や受講した数々の研修をふまえ、体系化された学びを学校内に取り入れ社会につながる学びを作れないのか、学校の先生にも学べる環境を用意できないかと奔走してきました。しかし、どの取り組みもことごとく、しくじってしまったそうです。

なぜ、どのように、しくじたのでしょうか？

寺西先生は金沢高校で取り組んでいる実践を3つ紹介してくれました。

1. 協働での問題解決に必要な〇〇力を鍛える内容を授業に組み込むこと
2. 外部機関のサービス導入や、連携の窓口として調整することで外部の力を取り入れること
3. 「学習する組織」を目指して豊富な校内研修を作っていくこと

1つ目の取り組みは、生徒の力は本当に伸びず、大きくしくじったそうです。その原因を、「フレームの罠」という独特な表現で語ってくださいました。企業研修を受けた際に、体系的な学びの良さを感じたことで、ロジカルシンキングやシステム思考など、さまざまなワークを用意し授業に取り入れ、結果、知識は身につく、技能も獲得はできました。しかし、生徒は授業の外で学んだ知識を活かすことが、できずじまいだったそうです。これでは、〇〇力が身についているかは分かりません。この取り組みに足りなかったのは、〇〇力を育てるには、知識と技能に加えて、“態度”が重要で、この3つがバランス良く備わっていないといけないとしくじりから学んだそう。(資料②)

態度を養うためにすることはシンプルで、それは文脈に乗せ振り返りを行うこと。(言い換えるならば、知識と技能に対して価値づけすることです)ただし、振り返りをするにも“やらされ感”が生じてしまっては意味がありません。今は、鍛えたい力を絞り込み(あらゆる学びは繋がっていると信じて)、知識や技能を使う環境を整備し、さりげなく「～するのがコツだよ」と提示してあげること、効果的なタイミングで小さく振り返りの機会を与えるなど、試行錯誤しながら生徒とともに取り組んでいるとのことでした。

2つ目は、外部サービスの導入の旗振り役となってみたものの、振り返ってみると学校内でうまく活用されず、定着していなかったそうです。孤立無援状態。まさに先走りのしくじりです。稟議を突破することに注力し、学内で広げるという視点を持てていなかったといいます。先走っても成果が出れば広がるのでは？と思ったが、先生方の協力を得られないと、自分の思い描いた学びが実現できず、さらには自分の負担増にもつながっていたそう。(起業家教育プログラムを実施するのに、昼休みに一人で教室を駆け回り必死に参加生徒を集めていたとか)このしくじりの解決には、困りごとを減らすことに結びつけることです。例えば、推薦入試の指導をしていて、

先走りのしくじり



想い	社会に繋がる学びを 協働での問題解決に必要な〇〇力の授業
役割	ついてこれない生徒 生徒の力が伸びない
役割	外部の力を学校に 外部機関との連携やサービスの導入
特徴	ついてこれない学校 学校内へ広がらない
特徴	学びって楽しい 学習する組織(豊富な校内研修)
特徴	ついてこれない教師 負担感が増すばかり

資料①

社会に繋がる学びを 協働での問題解決に必要な〇〇力の授業



資料②

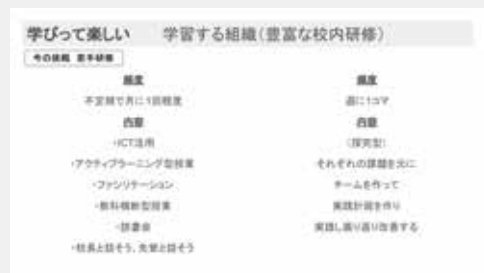
生徒が面接で自分のことを語れない、理由となる具体的なエピソードを持っていないなどの悩みを持っている先生に、起業家教育のプログラムでエピソードが作れますよと声がけすることです。「加えるより、つなげること」と寺西先生はいいます。

2つ目のしくじりは、3つ目にも影響していて、研修の時間を設けても、学ぶ楽しさより負担感しか与えてなかった反省につながっていきます。そこで個々人の興味を大切にすることにしました。当たり前ですが、先生方はそれぞれ興味や関心は異なります。研修では特に、その先生の興味や課題（やりたいこと）を選択できるように抗議型から探究型に変えました。

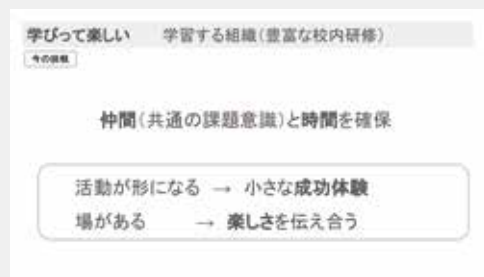
そのため、研修の約束事が非常にシンプルだということです。それは、どんなことを課題に取り組んでもいいけれど、絶対にただのお勉強にしないこと。つまり、日々の教育活動に活かせるテーマ設定にすることです。年に数回ではなく、日々中心となるようなテーマなので、授業でこういうことしたいやクラス経営でこういうことしたい、探究学習の悩みを解決するようなものなど、研修の価値を感じやすくなるものになっています。加えて、忙しさに飲み込まれないように守られた場、寺西先生の言葉を借りると、余白を生み出す「茶室のような環境」づくりを目指しているそうです。（資料④⑤）

資料③

「この研修をしました」と紹介されて登場した白紙のスライド。まさかの展開だったが、このスライドを見たときに思い浮かんだ研修が、今の自分に必要な学習課題かもしれないと考えさせられた。



資料④ 実際の余白の研修



資料⑤ 研修で感じた効果

しくじりメモ

例)・力を発揮するための方法「シンプル化」

・心と時間の余白を生むための研修

Speaker

Mr. しくじり 寺西 望 先生



金沢高等学校 探究科主任

石川県の公立校に4年間勤務。民間企業に転職後、プライダル事業者への営業や、学校への教材の営業に5年間携わる。同時期に、教育活動や地域活動を行うNPOにも参加。2017年に金沢高校に着任。